委員会05-審議資料１
令和８年８月１９日
総合計画策定委員会

はちのへビジョン8.0

第8次 八戸市総合計画 [基本構想] 2027 - 2034

知るほど好きに。好きが誇りに。
ここに居たいと感じるまち 八戸

あなたはこのまちで、どんな未来を思い描きますか?

10年後の自分って、何をしているんだろう？
10年後。小学生の多くは成人となり、中学生や高校生は社会人に。中には子育てをしている人もいるかもしれません。
職場では若手が中堅になって仕事に打ち込んでいるでしょうし、一方でその頃には定年を迎え趣味を楽しむ人もいるでしょう。
そんな私たち一人ひとりの変化は、大きな視点で見ると、まちの変化でもあります。
私たちの考えや行動が変わっていくと、まちのその先も変わっていく。
つまり「私たちの未来は、まちの未来」なのではないでしょうか。
だから、自分の未来へのビジョンを持てば、まちの未来のビジョンも見えてくる。
自分らしく楽しく暮らす毎日を思い描けば、わくわくするような未来になっていく。

この『はちのへビジョン 8.0』は、そんな未来を考えるための羅針盤のようなもの。
このビジョンをめくってみて、あなたのまちの未来をイメージしてみましょう。

contents

はじめに …… 01
第1章 将来都市像 …… 03
第2章 4つの理念 …… 05
第3章 歴史・資源 …… 07
第4章 本計画 …… 11
おわりに …… 17

第1章

将来都市像

知るほど好きに。好きが誇りに。ここに居たいと

感じるまち 八戸

八戸市は、海から拓け、海とともに発展してきたまちです。水産業をはじめ、商工業や農林畜産業など多様な産業が相互に関わり合い、人やモノの流れを生み出しながら、私たちの暮らしの源となってきました。産業の厚みは八戸の強みであり、これからのまちの可能性を広げる原動力です。

一方、暮らしに目を向けると、そこには様々な場面でまちの良さや個性を感じられる、豊かさがあります。人々が自分の仕事に日々誠実に向き合い、地域の産業を支えていること。季節の行事が毎年巡ってくること。少し足を延ばせば、海岸線の開放感や里山の穏やかな風景を肌で感じられること。まわりとの温かなつながりが大切にされていること。変化に向き合いながら新しい一歩を踏み出す人がいること。暮らしの中で、見たり、感じたりするもの一つひとつが、このまちのかけがえのない価値なのです。

そうしたものに気づき、見つめ直すとき、「このまちはいいな」という実感が心に湧いてきます。それはいま暮らしている人はもちろん、八戸を離れた人であっても、ひとたび懐かしい味や風景、空気にふれる機会があれば、きっとあらためて「このまちはいいな」と思うことでしょう。その実感が八戸への気持ちを深め、自分たちのまちとして大切に思い、誰かに語りたくなる思いにつながっていくのではないでしょうか。

年々人口が減少していく中でも、今ここで暮らす人、一度離れて戻ってくる人、さらには市外から訪れる人など、どんな立場の人にとっても八戸がそれぞれの形で価値を感じるまちでありたい。そのために、市制施行100周年を迎える歴史の中で、育まれてきた多様な産業、豊かな自然や食、暮らしを彩る文化を次代に受け継ぎながら、人々のつながりと挑戦によって新たな価値を生み出していく。そうすることで、このまちで暮らすことの良さを、一人ひとりがよりいっそう実感できるようにしていきたいものです。

八戸を知るほど好きになり、その思いが誇りへと昇華し、誰もがこのまちへの価値を感じられるようになってほしい。そんな思いを込めて、
将来都市像**「知るほど好きに。好きが誇りに。ここに居たいと感じるまち 八戸」**を掲げます。

第2章

将来都市像の実現に向けた 4つの理念

挑戦

このまちには、海から拓け、港の整備とともに、新しい道を切り拓いてきた活力があります。

このまちは、産業基盤を整え、水産業や製造業、農林畜産業などが結びつく中で、時代の変化や困難に向き合い、新たな仕事や交流を生み出してきました。こうした歩みは、まちの挑戦の歴史です。

暮らし方や価値観が多様化し、社会が大きく変化する今、その歩みに学び、変化を恐れず新しい一歩を踏み出す姿勢が大切です。

私たちは、まちが重ねてきた挑戦の歩みを受け継ぎ、一人ひとりが新たな一歩を踏み出しながら、まちの可能性を広げていきます。

温もり

このまちには、人と人との距離がほどよく近く、互いを気に掛ける温かな空気があります。

日々交わされる声かけや思いやりは、喜びをともにし、困ったときに支え合える関係につながります。不安や困難に直面したときにも、人とのつながりが心を支え、前を向くきっかけになります。

一人ひとりの背景や考え方は異なります。だからこそ、相手に心を寄せ、それぞれの違いを認め合い、互いを尊重することが大切です。

私たちは、思いやりが行き交い、一人ひとりが大切にされ、誰もが安心して暮らせるまちをつくっていきます。

4つの

これからのまちづくりには、市民、地域が、それぞれの立場から、みんなで力を本構想では、これからのまちづくりでを掲げています。それは「挑戦、温もり、みんなで前進していくことで、将来都市

将来

知るほど
好きが
ここに居たい
人

理念とは

団体、事業者、行政など、多様な主体合わせていくことが大切です。そのため、大切にしたい考え方として、4つの理念感動、関わり」。この4つの理念を共有し、像の実現を目指します。

都市像

好きに。
誇りに。
と感じるまち
戸

感動

このまちには、何気ない日々の中にも、ふと心が動く瞬間があります。

地元の食を味わうこと。何かに打ち込む人の姿に触れること。いつもとは違う気持ちで風景を眺めること。こうした一つひとつが、まちへの愛着や誇りを育むきっかけとなってきました。

驚きや喜び、憧れなど、心が動く体験は、身近な人や出来事を新たな目で見つめることにつながります。日々の中にあるものに目を向け、自分なりに感じて、気づくことが大切です。

私たちは、まちで出会う感動を大切にし、心が動く瞬間が生まれ続けるまちをつくっていきます。

関わり

このまちには、一人ひとりの小さな行動や関わり合いから生まれる市民力があります。

次の世代を育てること。自分の経験や得意なことを地域で活かし、伝えていくこと。頑張る人を応援すること。一人ひとりの行動やつながりが、このまちをつくってきました。

人によって、経験や得意なこと、まちとの関わり方も様々です。みんなができることを活かし、自分に合った歩幅で関わっていくことが大切です。

私たちは、それぞれの立場からまちに関わり、ゆるやかにつながりながら、みんなでまちを育てていきます。

第3章

歴史・資源

未来を思い描く市民一人ひとりの意思が、八戸のまちを拓いてきました。

八戸市は、昭和４（1929）年５月１日、当時の八戸町・小中野町・湊町・鮫村の４町村の合併により誕生し、幾度の変遷を経ながら、令和11（2029）年に市制施行100周年を迎えます。その時代を生きる人々が未来を思い描き、困難や変化に向き合いながら、一歩ずつ行動を重ね、このまちは発展してきました。

まちの未来を考えていく上で、これまでのまちの歩みを振り返ってみましょう。

1947年（昭和22年）第1回国民体育大会冬季大会を八戸市で開催

当市が目覚ましい成長を遂げるきっかけとなった「新産業都市指定」。これにより、県と一体となって港湾や、道路、工業用地などの産業基盤の整備が進められました。

東北新幹線八戸駅開業

昭和28年頃 鮫港

1929 昭和4年 八戸市誕生

1951 昭和26年 八戸港が重要港湾指定

1963 昭和38年 国立八戸工業専門学校開校

1964 昭和39年 新産業都市指定

1971 昭和46年 八戸短期大学開学（現八戸学院大学短期大学部）

1972 昭和47年 八戸工業大学開学

1973 昭和48年 八戸・苫小牧間カーフェリー就航開始

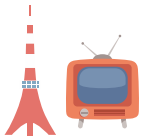
1981 昭和56年 八戸大学開学（現八戸学院大学）

1925年 ラジオ放送が始まる

1955年頃～ 高度経済成長が本格化

家電三種の神器が普及

1964年 東京オリンピック開催 カラーテレビの普及



1970年 大阪万博開催

昔と今の海沿い

昭和20年 航空写真

令和5年 航空写真

昭和20年当時は、現在とは大きく異なる海岸線が広がっていました。その後、埋立てによって陸地を広げながら、沖合へと大きく発展してきたことがわかります。現在では、広がった陸地に産業施設などが集積し、国内外を結ぶ拠点として、地域の産業と暮らしを支えています。

工場群

北インター工業地帯

産業基盤の整備が進められた結果、工業をはじめ、水産業、エネルギー関連産業など、多様な産業が集積する一大産業都市として、北東北の地域経済をけん引しています。

1989
平成元年
八戸自動車道
（安代JCT～八戸IC）
開通

1990年代
携帯電話・
インターネット普及

2002
平成14年
東北新幹線
八戸駅開業

2005
平成17年
南郷村と
合併

2013
平成25年　種差海岸が
三陸復興国立公園に
指定

2011年
東北地方太平洋沖
地震の発生

2010年代
スマホ普及

2016
平成28年
八戸三社大祭の山車行事が
「山・鉾・屋台行事」として
ユネスコ無形文化遺産に登録

2017
平成29年
中核市移行
八戸圏域連携
中枢都市圏形成

八戸市出身
伊調馨さんが
国民栄誉賞を受賞

2021
令和3年
是川石器時代遺跡が
「北海道・北東北の縄文遺跡群」
としてユネスコ世界遺産に登録

2029
令和11年
市制施行
100周年

東京2020オリンピック・
パラリンピック開催

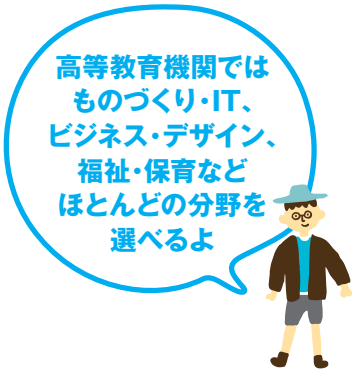
種差海岸

八戸三社大祭

国宝「合掌土偶」

中核市移行

中核市移行により、県から多くの事務権限が移され、市民に身近な市が、地域の実情に応じた行政サービスを担えるようになりました。
手続きの迅速化や窓口の集約、市保健所による総合的な保健衛生サービスなど、市民の利便性の向上につながっています。



海も山も身近

種差海岸や蕪島などの海辺の自然環境にも、少し足をのばせば里山の風景にも気軽にふれられるまち。それぞれ眺望の美しさはもちろん、散策や学習、日常の憩いの場として暮らしの中に溶け込んでいます。

便利で暮らしやすい

都市の利便性と快適な気候が調和した、暮らしやすいまち。まちなかには公共施設が充実、陸・海・空の交通アクセスも良好でどこへ行くにもスムーズ。夏は冷涼、冬は少雪で日照時間も長いため、年間を通じて過ごしやすいです。

学べる環境が充実

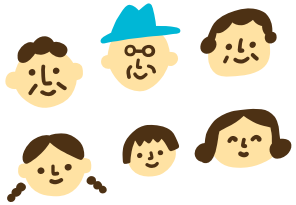
複数の大学・高等教育機関があるまち。工学や看護、地域社会に関する専門分野を学べる環境が整い、地域の発展を支える人材を育成するという重要な役割を担っています。

横丁の雰囲気がいい

中心街に、昭和の風情が残る情緒あふれる8つの横丁があるまち。個性豊かな飲食店が軒を連ね、新鮮な海の幸や郷土料理を味わいながら、地元の人、市外から訪れた人、みんなが気さくに交流できる温かな夜を楽しんでいます。

市民のみなさんに『八戸市って

まちの未来を「まちのいいところ」

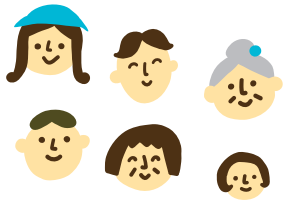


令和7年度に行ったワークショップや、皆さんから寄せられたご意見から、

まんまるフォルムに
先には真っ赤な斑。
八戸が大好きすぎて

聞いてみました！どんなところ？』

考えるために、を再確認してみる



アンケートなどにおいて、市民の主なものを再構成してまとめました。

イカのずきん。くちばしの生まれも育ちも蕪島で、住み着いちゃいました。

自慢できる祭りがある

脈々と地域に受け継がれてきた祭りがあるまち。夏を華麗な山車が彩る祭礼行事「八戸三社大祭」、冬に春の訪れを願う民俗芸能「八戸えんぶり」。どちらも多くの市民が準備や運営に関わり、まち全体で祭りを支えています。

スポーツが盛ん

競技だけでなく応援や交流の場として親しまれているスポーツ文化があるまち。プロスポーツをはじめとするチームの活動を通じて、世代を超えた一体感が生まれています。

食べ物がおいしい

豊かな海が育む食文化があるまち。獲れたての新鮮な魚介類はもちろん、素材の良さを活かした多彩な料理を堪能することができます。伝統的な郷土料理であるせんべい汁も有名で、ご当地グルメの火付け役としても知られています。

朝市に活気がある

朝市から始まる「特別な朝」があるまち。館鼻岸壁朝市では、買物や食事を通じて人と人が自然に言葉を交わし夜明け前から活気がみなぎっています。

ヴァンラーレがJ2昇格したときはめっちゃ嬉しかった！

朝市大好き！期間中は毎週行く！

親、子、孫三世代で祭りに参加して、伝統をつないでいるよ

実は八戸沖はトラフグの漁場なんだよ

いかずきんズは八戸の鳥「ウミネコ」と八戸の魚介「イカ」がモチーフだよ

第4章

本計画

策定趣旨

近年、私たちを取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化、人手不足の進行に加え、デジタル技術の進展、脱炭素化への対応、価値観や暮らし方の多様化など、大きく変化し、地域課題も、複数の分野が相互に関係するなど複雑化しています。

こうした中、当市が目指す将来の姿や政策の方向性を市民、地域団体、事業者、行政などが共有し、各分野の施策を総合的かつ計画的に進めていくため、まちづくりの羅針盤として、「はちのへビジョン8.0」を策定するものです。

本ビジョンは、市政運営の最上位計画であり、各分野の個別計画は、ビジョンとの整合を図りながら策定されます。

また、本ビジョンは基本構想、基本計画、重点パッケージの三層で構成し、まちづくりを推進していきます。

［基本構想］

当市が目指す将来都市像と、まちづくりの基本となる理念を示すものです。市全体で共有する長期的な方向性であることから、計画期間を8年間としています。

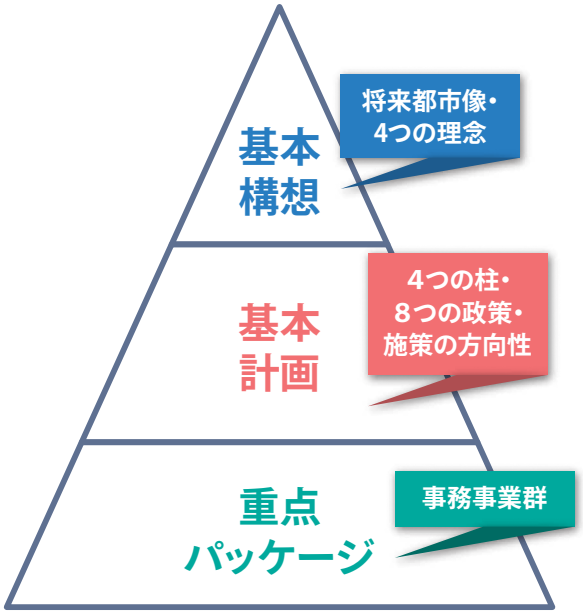
［基本計画］

基本構想を行政における政策面から具体化し、政策目標や施策の方向性等を体系的に示すものです。前期・後期各４年間とし、社会情勢や市民ニーズの変化などを踏まえ、適宜必要な見直しを行いながら、市政を推進していきます。

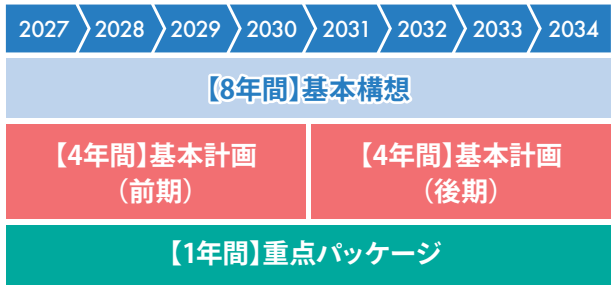
［重点パッケージ］

基本計画全体を着実に推進することを前提として、その時々の社会情勢や市政上の重要課題に対応するため、関連する取組を横断的に組み合わせ、具体的な事業をまとめたものです。毎年度、取組状況や社会情勢の変化を捉え、必要な見直しを行いながら、課題の解決に向かって、重点的に取り組んでいきます。

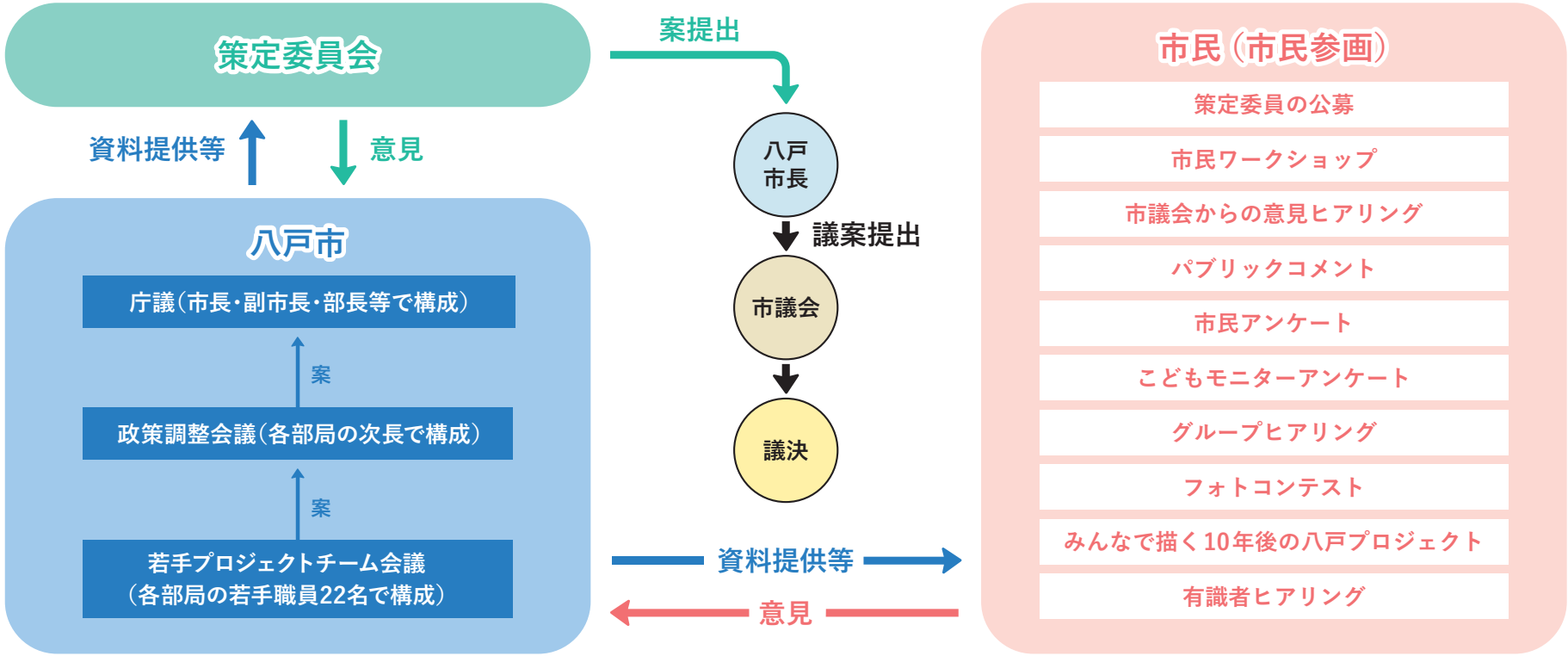
計画構造



計画期間



基本構想　策定の体制



基本構想　策定の歩み

R7.10.9	第1回策定委員会（策定コンセプト、計画構造・期間、市民参画内容）
R8.1.16	第2回策定委員会（基本構想の骨子案検討）
R8.4.21	第3回策定委員会（基本構想の素案検討）
R8.6.22	第4回策定委員会（基本構想の原案検討）
R8.8.19	第5回策定委員会（基本構想のパブリックコメント実施案検討）
R8.8.XX~9.XX	基本構想に対するパブリックコメント
R8.10.XX	第6回策定委員会（基本構想案の確認）
R8.10.XX	市長へ基本構想案提出
R8.12.XX	市議会による基本構想の議決

市民取

はちのへビジョン8.0をいろいろな場をつくり、いただきました。

市民ワークショップ

共通テーマ
「10年後になっていてほしい八戸市」

令和7年12月13日
23人参加 （社会人）

令和7年12月20日
54人参加 （高校生20人・大学生25人・社会人9人）

市民アンケート

（下記2種類とも内容は同一）

令和7年11月21日～12月12日
【無作為抽出及び市政モニター】 配付数：3,103人／回答数：1,582人 （回答率51%）

令和7年12月15日～令和8年1月16日
【上記以外（誰でも回答可能）】 回答数：134人

グループヒアリング

令和8年1月25日	令和8年1月30日
多文化共生 関係団体より9人（うち外国人5人）	デジタル 関係団体より9人
令和8年1月31日	**令和8年2月13日**
若者 高校生～40代まで30名	青年経済界 八戸商工会議所 青年部20名

みんなで描く 10年後の八戸プロジェクト

実施期間 令和7年12月19日～令和8年1月16日
有効回答数771の意見 （場所：八戸市役所・はっち・八食センター・八戸駅）

参画の組

考えていくにあたり、
たくさんのご意見を

有識者ヒアリング

令和8年1月26日
地方行政
千葉大学特任教授
牧 慎太郎 氏
〈八戸特派大使〉

令和8年1月27日
広域連携
内閣官房
地域未来戦略本部 事務局長
海老原　論　氏

令和8年1月28日～29日
産業
東北大学名誉教授
堀切川 一男 氏〈八戸特派大使〉

松田キャリアライフデザインオフィス（JXエルエヌジーサービス㈱元社長）
松田　浩二　氏〈八戸特派大使〉

令和8年2月3日
行財政
一橋大学
大学院法学研究科教授
辻 琢也 氏

令和8年2月4日
スポーツ×まちづくり
株式会社鹿島アントラーズFC
取締役副社長
鈴木 秀樹 氏
〈八戸特派大使〉

フォトコンテスト

テーマ「未来に残したい八戸の風景」

［第1回］223件
実施期間 令和7年10月17日～令和8年2月28日

［第2回］140件
実施期間 令和8年4月21日～令和8年7月20日

フォトコンテスト入賞作品

こどもモニターアンケート

期間　令和7年11月21日～12月8日
配付数：100人
（小学校5年生～高校3年生）
回答数：82人（回答率82%）

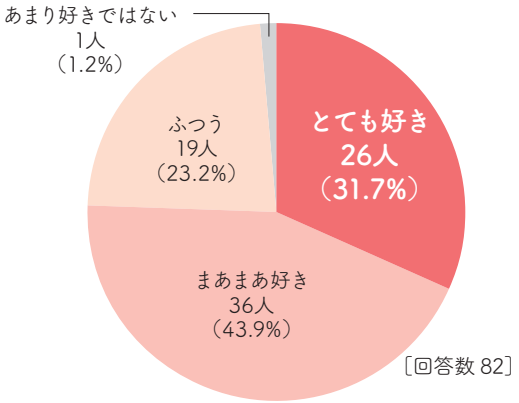
パブリックコメント

期間　令和8年○月○日～○月○日
基本構想について

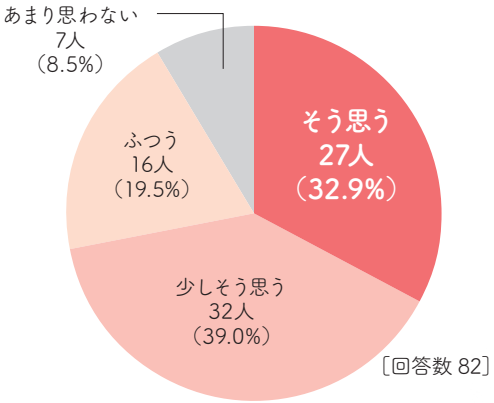
八戸市をどう思いますか？

こどもモニターアンケート

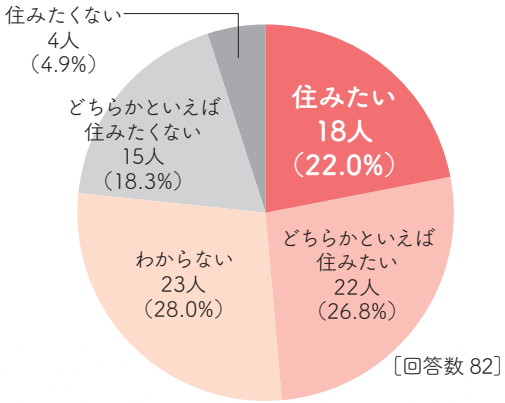
八戸市が好きですか？



住みやすいまちだと思いますか？

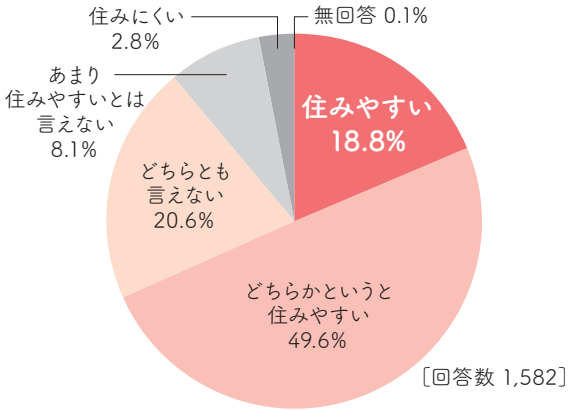


大人になっても住みたいですか？

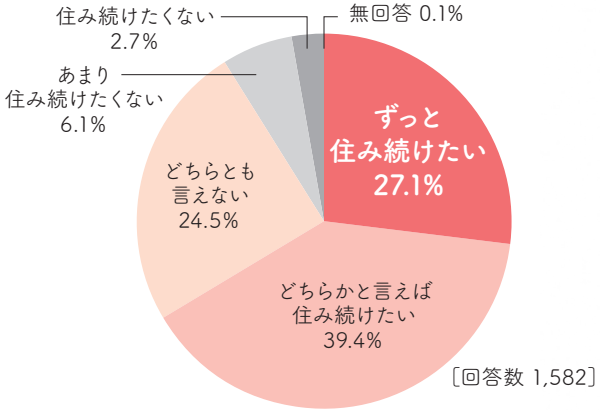


市民アンケート（無作為抽出及び市営モニター分）

住みやすいまちだと思いますか？



住み続けたいですか？



アンケートから見えたきたのは、このまちには既に「好き」や「住みやすい」という土台があるということです。

こどもたちの「八戸が好き」、大人の「八戸は住みやすい」。その実感は、まちの未来をつくる大きな力です。

まちを好きになったり、住みやすいと思えるようなまちづくりを八戸全体で進めていきます。

八戸市総合計画策定委員会名簿

任期：令和7年10月9日～令和8年○月○日

1	アンジェリカ・ワン	八戸市多文化共生審議会　委員
2	今川　和佳子	はちのへ文化のまちづくりアドバイザリーボード　委員
3	岡本　信也	八戸商工会議所青年部　会長
4	奥寺　良之	八戸市医師会　会長
5	小澤　直子	八戸市教育委員
6	金入　健雄	八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議　会長(R.6～7)
7	川上　敦史	高館地区連合町内会　会長
8	木村　照男	八戸農業協同組合　代表理事専務
9	栗林　志音	公募
10	小藤　一樹	八戸市都市計画審議会　会長
11	嵯峨　弘章	三八地区高等学校長協会　会長
12	坂本　俊也	八戸青年会議所　顧問
13	佐々木　伸夫	VISITはちのへ　理事長
14	重　浩一郎	八戸工業高等専門学校　准教授
15	接待　健一	八戸港振興協会　常任理事
16	高野　英夫	青森県畜産・飼料コンビナート振興協会　副会長
17	高橋　学	岩手県北自動車（株）南部支社　支社長
18	塚尾　沙貴	公募
19	堤　静子	八戸市総合計画等推進市民委員会　委員長
20	田頭　初美	八戸市こども・子育て会議　委員
21	中村　一明	連合青森三八地域協議会　議長
22	広瀬　知明	八戸商工会議所　副会頭
23	町田　直子	NPO法人ACTY　理事長
24	松橋　光宜 ※1	社会福祉法人八戸市社会福祉協議会　理事兼事務局長
25	間山　路代 ※2	社会福祉法人八戸市社会福祉協議会　事務局長
26	南　将人	八戸工業高等専門学校　教授
27	目澤　伸一	八戸市スポーツ推進委員協議会　会長
28	山道　典子	公募
29	類家　徳久	商店街振興組合三日町三栄会　理事長

＊敬称略：五十音順　＊役職は委員委嘱時のもの

※1：任期 令和8年4月1日から　※2：任期 令和8年3月31日まで

委員長：堤　静子　／　副委員長：南　將人

未来にわくわくするために。次の100年に踏み出そう。

『はちのへビジョン8.0』をご覧になって、いかがでしたか? 未来を考えることが、楽しくなってきたでしょうか?

この冊子では「知るほど好きに。好きが誇りに。ここに居たいと感じるまち 八戸」を将来都市像として描きました。八戸を知るほど好きになる。そして知れば知るほど、ただ「なんとなく好き」だったまちが、理由を持った「好き」へと変わっていく。つまり、「好き」の解像度が上がっていく。それを積み重ねることで、誰かに語りたくなる「誇り」をこのまちに感じてほしい、という思いが込められています。

このあとは、みなさんの「わくわくする未来への思い」にバトンタッチです。みなさん一人ひとりが未来を「自分ごと」として捉え、これからかなえていきたい暮らしや大切にしたいことを見つめ、考え、動き出す。その挑戦はきっと誰かの心を動かし、気持ちがつながり、まちの中にお互いに関わり合う良い雰囲気が満ちていく。そうしてこのまちに「わくわく」が連鎖していく。そんな未来が、とても楽しみです。

八戸市は令和11年5月に市制施行100周年を迎えます。それは、これまでの八戸の歩みを振り返る機会であるとともに、次の100年に向けて、私たちがどのようなまちをつくっていくのかを考える大きな節目となります。「わくわくする未来」を思い描きつつ、まずは将来都市像に掲げたアクションのはじめの一歩、「八戸のまちを、あらためて知る」ことから始めてみませんか? これまで先人たちがまちを発展させてきた歴史を受け継ぎながら、これからも新たな価値を生み出し続けるまちへ。次の50年、100年先に向けて、「ここに居たい」と感じられるまちを、みんなでつくっていきましょう。

八戸市

はちのへビジョン8.0

第8次 八戸市総合計画［基本構想］ 2027 - 2034

編集・発行

八戸市 総合政策部 政策推進課
〒091-8686 青森県八戸市内丸一丁目1番1号
TEL.0178-43-2111（代表）
ホームページ https://www.city.hachinohe.aomori.jp/